

R3年度多機能型事業所すまいるはーと自己評価（児童発達支援）

公開日：令和4年 2月 14日

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	改善目標、工夫している点など
環境・ 体制 整備	①	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切であるか	83%			無回答あり。保護者の方にも知ってもらう機会を工夫しながら作っていく。
	②	職員の配置数は適切であるか	100%			
	③	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされているか	83%			無回答あり。①と同様。
	④	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子どもたちの活動に合わせた空間となっているか	83%			無回答あり。①と同様。
業務 改善	⑤	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか	100%			
	⑥	保護者向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意見等を把握し、業務改善につなげているか	100%			
	⑦	事業所向け自己評価及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、その結果による支援の質の評価及び改善内容を事業所の会報やホームページ等で公開しているか	83%			無回答あり。年一回自己評価を行っていること、ホームページについても再度確認している。
	⑧	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか		17%	50%	第三者による外部評価は公のものとしては行っていないが、外部評価が受けられる場面では積極的に聞いている。
	⑨	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保しているか	83%	17%		研修計画を作成し、職員が知りたい研修などをリサーチすることで興味をもって参加できるようにする。
適切 な 支 援 の 提 供	⑩	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達及び放課後等デイサービス計画を作成しているか	100%			
	⑪	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用しているか	83%	17%		新規契約時の流れなどを職員にも知ってもらうようにしていく。
	⑫	支援計画には、各ガイドラインの提供すべき支援の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で支援内容から子どもの支援に必要な支援が選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか	83%	17%		ガイドラインについて確認する機会を定期的に行っていく。
	⑬	各支援計画に沿った支援が行われているか	83%			無回答あり。計画書の支援内容に沿った活動ができるようにしていく。
	⑭	活動プログラムの立案をチームで行っているか	83%			無回答あり。担当職員を中心に計画書に沿って引き続き計画していく。
	⑮	活動プログラムが固定化しないように工夫しているか	83%			無回答あり。活動については職員全体でアイデアを出し合い、計画していく。
	⑯	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる支援計画を作成しているか	100%			
⑰	支援開始前には職員間で必ず打ち合わせをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認しているか	100%				

R3年度多機能型事業所すまいるはーと自己評価（児童発達支援）

	⑱	支援終了後には職員間で必ず打ち合わせをし、その日に行われた支援の振り返りを行い、気づいた点等を共有しているか	50%	50%		非常勤職員も含めて集まれる機会が週一回程度しかないため、グループLINEなどオンラインのツールを上手く活用していく。
		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	改善目標、工夫している点など
	⑲	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか	83%	17%		毎回連絡帳の記入をしている。情報共有をグループLINEなどで行っていく。
	⑳	定期的にモニタリングを行い、各支援計画の見直しの必要性を判断しているか	83%			無回答あり。定期ミーティングで行っている。
関係機関や保護者との連携	㉑	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画しているか	83%			無回答あり。開催時にはできる限り参加している。
	㉒	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っているか	50%	50%		機会はありませんが、必要時には行う。
	㉓	学校等との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っているか	83%	17%		児童によっては連携ノートなど活用していく。基本的には送迎時の伝達をしっかりと行う。
	㉔	医療的ケアが必要な子どもを支援している場合は、地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等との連携、及び子どもの主治医等と連絡体制を整えているか			17%	医療的ケアが必要な児童の受け入れなし。
	㉕	移行支援として、保育所や認定こども園、小学校や特別支援学校等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	100%			併用して通っている保育園やこども園との情報共有は積極的に行っている。就学先の学校とは必要時に相談員の協力のもと対応していく。
	㉖	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障がい福祉サービス等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか	50%	17%	33%	現在対象児童はいませんが、その時には相談員と協力しながら移行支援していく。
	㉗	他の児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けているか	17%	33%	33%	研修案内があった際には積極的に参加していく。オンライン研修を受けられる環境を会社としても整える。
	㉘	保育所・認定こども園等や放課後児童クラブ等との交流や、障害のない子どもと活動する機会があるか			67%	コロナ渦中難しいところがある。
	㉙	(自立支援)協議会子ども部会や子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか	17%		17%	参加しているが、職員全体に対する落とし込みができていなかったため、今後しっかりと報告していく。
	㉚	日ごろから子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか	100%			
	㉛	保護者の対応力の改善を図る観点から、保護者に対してペアレントトレーニング等の支援を行っているか	33%	33%	17%	なかなか行えていない現状がある。子育てに関する情報発信など、オンラインを活用しながら充実させていく。
保護者への説明責任等	㉜	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか	66%			無回答あり。契約時に行っている。今回の機会に非常勤職員に対しても周知した。
	㉝	各ガイドラインの「提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された各支援計画を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から同意を得ているか	83%			上記と同様。
	㉞	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っているか	100%			
	㉟	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援しているか	17%		50%	コロナ渦中で依然行っていた形では出来なくなったため、今後開催方法を検討していく。
	㊀	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	100%			窓口を作っているが、主に管理者を中心に対応している。

R3年度多機能型事業所すまいるはーと自己評価（児童発達支援）

	⑳	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	50%		50%	活動内容の他、子育て支援につながるような情報も発信していく。
		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	改善目標、工夫している点など
	㉑	個人情報に十分注意しているか	100%			
	㉒	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか	66%			無回答あり。日中電話でのやり取りが難しい保護者の方とはメールなども活用して情報伝達している。
	㉓	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業所運営を図っているか		17%	50%	今後工夫して行えるよう努力する。
非常 時 等 の 対 応	㉔	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知しているか	100%			保護者への発信法を検討する。
	㉕	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出、その他必要な訓練を行っているか	83%			無回答あり。地域の避難場所の確認など、活動中の散歩と合わせて確認するなど、いざという時の為に備えておく。
	㉖	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状態を確認しているか	83%	17%		指示書の確認も行っておく。
	㉗	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか	50%		17%	上記同様。
	㉘	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有しているか	83%			無回答あり。細かいことでも情報共有していく。
	㉙	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか	66%	17%		定期的に研修を受ける機会を作り、事業所全体で取り組んでいく。
	㉚	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に説明し了解を得たうえで放課後等デイサービス計画に記載しているか		33%	33%	上記同様。

※児童支援向けアンケートを多機能型向けに標準化して評価しているため、自己評価の結果は児童発達及び放課後等デイサービスとも同じです。

【児童発達支援についての課題と今後の目標】

自己評価については、職員全員に行ったほか、保護者からの支援評価結果をもとに、現在の課題と今後の目標について話し合いを行いました。内容については以下の通りです。

◎環境・体制整備について

- ・保護者の方からの評価より、特にご利用してから日が浅い方への発信が不十分であると感じた。昨年度に続き行事等も開催が難しい状況であったため、保護者の方が参加しやすいような開催の形検討するなど、工夫していきたい。
- ・活動場所としては、おおむね整備されている。人員配置の面では活動内容に応じて人員を増やすなど調整して、充実させていきたい。

◎適切な支援の提供について

- ・今年度はコロナの感染状況を見ながら外出の活動なども行ってきた。個別の目標を軸にしながら、様々な経験を増やせるように今後も活動内容等工夫していきたい。

◎保護者への説明等

- ・保護者の評価表と自己評価において大きな差異はなかった。
- ・現在は父母の会等の開催など、人が集まる場を作るのが難しい状況が続いているため、オンライン等を活用した方法などを検討していきたい。
- ・情報の発信としてはブログを活用しながら、様々な形で児童の活動予定やその様子を気軽に見ただけのように工夫していきたい。

◎非常時の対応について

- ・活動の中で訓練等行っているものの保護者への発信が十分にできていないと感じた。